# 幣

15画

おん ヘイ

なりたち 旧字体は幣。布(巾)を幾つにも分かつ(八八)ことを表した尚(八)とそれをもっと推し進める意味の攵(ぼくにょう)との会意形声字である。敝は〝破る〟意味。更に巾(ぬの)を加えた幣は、布を細かく切って神に供える〝幣(ぬさ)〟を表す。転じて、〝贈り物・財貨〟。

いみとじゅくご
▼幣(ぬさ)。幣(ぐみて)。神に祈るときにささげるもの。
幣束…御幣。幣(ぬさ)。
奉幣…神に幣(ぬさ)を奉ること。
▼貨幣。
貨幣…硬貨・紙幣等のお金。
紙幣…紙の貨幣。札という。
造幣…貨幣を造ること。例造幣局(貨幣を造る役所。)
▼贈り物。
幣物…贈り物。進物や札物。

# 弊

15画

おん ヘイ

なりたち 本字は獘。破れる意味の敝(八)と、死との会意形声字の斃は、人が殺されて死ぬ意味の字。獘は犬が殺される意味の字。〝害される・有害〟の意味に用いられ、また、〝疲れ衰える〟意味。

いみとじゅくご
▼破れる。
弊衣…破れ衣。痛んだ衣服。例弊衣破帽(破れた服に破れた帽子、昔の高校生の姿を表したもの。)
弊履…履き古して破れた草履。用例弊履の如く見捨てる。
▼有害。悪い。
弊害…害。悪い事。
弊制…有害な制度。悪い仕組みや決まり。
弊風…悪い風習(風俗習慣)。
旧弊…❶古い風習や制度から来る弊害。❷古い仕来りを頑固に守ること。
▼疲れ衰える。
疲弊…❶疲れ衰えること。❷経済的に窮乏すること。
▼謙称。
弊宅…私の家。拙宅。弊屋。
弊店…私の店。





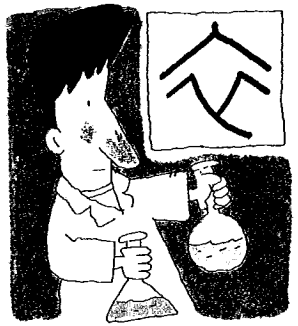
# 衣

【4年】

6画

おん イ
ころも

なりたち 上衣(上着)の形をかたどった象形字。腰から下に着ける物を〝裳(しょう)〟といい、衣と合わせて〝衣裳(いしょう)〟という。わが国では〝ころも〟と読み、広く〝着物〟の意味に用いる。ネ(ころもへん)は、衣の変形したもの。



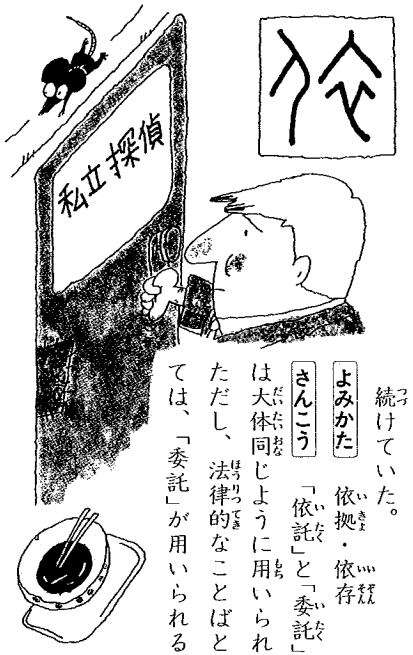
いみとじゅくご
▼衣。着物。
衣装…❶着物。❷能や芝居で出演者が着る衣服。
衣服…着物。衣装。
衣料…衣服とその材料。例衣料品
衣冠…❶衣服と冠。❷昔の貴族の装束の一つ。宮中で着用する略式の服。
衣食住…❶着る物と食べる物と住む所。❷生活。暮らし。
更衣…❶着物を着替えること。例更衣室 ❷昔の女官の名。女御に次ぐ地位にあった。
脱衣…着物を脱ぐこと。例脱衣所
着衣…着物を着ること。また、着ている衣服。
白衣…医者・看護婦・化学研究者などが着る白い衣服。
さんこう 特別なよみかた→浴衣

# 依

8画

おん イ・エ

なりたち 衣は人に依(よ)り、人は衣に依って体を守る。人と衣とで〝依る〟の意味を表した会意形声字。〝依る・頼る〟こと。その状態を続ける意味で、〝そのまま〟の意味。




いみとじゅくご
▼依(よ)る。頼る。ゆだねる。
依頼…❶頼りにすること。また、頼り。❷頼むこと。頼み。
依頼心…人を当てにする心。
依託…❶頼りにして任せること。❷物により掛かること。
帰依…神仏を深く信じて身をゆだねること。
▼そのまま。
依然…元のまま。元通り。
用例 依然として書物を読み続けていた。
よみかた 依拠・依存
さんこう 「依託」と「委託」とは大体同じように用いられる。ただし、法律的なことばとしては、「委託」が用いられる。